



東京都美術館 × 東京藝術大学

# とびらプロジェクト

## 東京都美術館 × 東京藝術大学

### 「とびらプロジェクト」

### アート・コミュニケーション(とびラー)募集

「東京藝術大学の役割は芸術家を育てるだけではないんです。創造的な活動を通して、社会に新しい価値を提案すること、重要な役割だと思っています」

東京藝術大学特任助教伊藤達矢氏は、東京都美術館との連携事業「とびらプロジェクト」のプロジェクト・マネージャである。東京藝大と都美術館との連携がはじまったのは平成24年から。都美術館のリニューアル・オープンがきっかけだ。

都美術館は、今回の建物の改築に伴い、美術館の使命を新たに設定しなおした。中でもユニークなのは、アートを介して多様な人々が価値を共有できる場としての美術館を目指すアート・コミュニケーション事業である。

「とびらプロジェクト」は、そうした東京藝大と都美術館の想いが重なり生まれたプロジェクトだ。現在20〜70代までの約120名のアート・コミュニケータ(愛称「とびラー」)が都美術館を拠点に活動している。職業も会社員、教員、主婦と様々で美術を専門的に学んだことのない人が大半だ。とびラーの役割は、ワークショップの運営から、学校向けの鑑賞の授業のファシリテータ、建築ツアーのガイド、障害のある方の鑑賞サポートなど多岐に渡る。特徴的なのは、独自の講座で学んだとびラーが有志で小さなチームをつくり、オリジナルティーあふれるワークショップ等を自主企画する「とびラボ」という取組みだ。これまでにも、展覧会に合わせたユニークなプログラムや、東京藝大の卒業作品展を舞台にしたイベントなどが数多く実施されてきた。

「とびラーはサポーターではなくプレイヤーです。つまり、与えられた仕事ではなく、多様な人々同士でアイデアを出し合い、組み合わせ、互いの関係性や働き方を自分たちの手でデザインしていく活動で、そこに醍醐味があるのです。」と、都美術館学芸員でアート・コミュニケーション担当係長の稲庭彩

和子氏は語る。多様な人々が、各々の価値観を尊重し合いながらも、つながり合えるコミュニケーションの形成こそが「成熟した社会」に必要なことだとすれば、東京藝大と都美術館の取組みは、新しいソーシャルデザインの在り方を示唆しているとも言えるだろう。

そして、今年もとびラーが40名募集される。新しい人々の出会いと、そこから生まれる取組みに、大きな期待が寄せられる。



とびらプロジェクト

<http://tobira-project.info>

### 第5期とびラー40名募集!

**対象** 18歳以上の方。  
**応募締切** 平成28年2月16日(火)消印有効  
**ウェブサイトより応募用紙をダウンロード**  
<http://tobira-project.info/b2016>  
**書類郵送先**  
〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36  
東京都美術館 アート・コミュニケータ募集担当宛

### とびらプロジェクトフォーラム 「美術館とソーシャルデザイン」

**日時** 平成28年1月31日(日)  
13時00分～15時30分  
**定員** 220名 (ウェブサイト申込みフォームより事前申し込み)  
**パネリスト** 日比野克彦、西村佳哲、森司、稲庭彩和子、伊藤達矢  
<http://tobira-project.info/f2016>

